

心理士について

心理士は、臨床心理士や公認心理師という専門の認定資格・国家資格を有しています。

『心理学』に関する専門的知識および技術に基づき、検査やご相談を通じて、お子さんと親御さんを支援いたします。

お子さんの状態・特性の理解と適切な支援方法の検討

心理士は、心理検査や面談を通じてお子さんの特性、強み、そして困りごとを理解します。その上で、お子さん一人ひとりに合った具体的な支援方法、例えば理解しやすい指示の出し方、コミュニケーションの取り方、困りごとへの対応方法などを提案します。

特に、乳幼児期のお子さんには、遊びを通じたアプローチも行い、発達を促します（JASPER や ESDM 理論等を療育に活かします）。また、好きな遊びを探すとともに、好きな遊びを広げていき、余暇活動の充実や、柔軟さに対応できるように促します。

お子さんの発達段階や特性に応じたアプローチは、お子さんに安心した中でのコミュニケーションを促し、自己肯定感を育み、将来にわたる精神的健康を支えます。

（例：子どもの個別検査 子どもの個別相談 療育等）

子どもを取り巻く環境を調整する

お子さんが過ごす環境は、家庭だけでなく、保育園、幼稚園、学校、地域社会など多岐にわたります。心理士は、お子さんが安心して過ごし、成長できるようなサポート体制のために、親御さんとともに、保育園、幼稚園、学校、医療機関、地域の支援機関などと連携し、お子さんの環境を整えるための方法を考えます。

（例：保育所等訪問支援 親グループ 親相談 ペアトレ等）

親自身のストレスへのケアとサポート

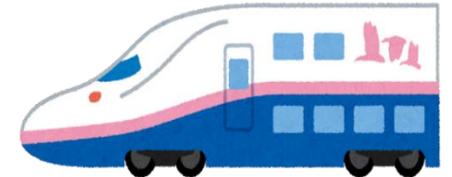
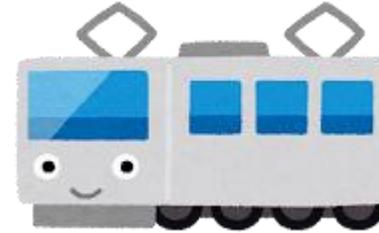
心理士は、親御さん自身の心の健康にも焦点を当て、ストレス軽減のための具体的な方法を一緒に考えたり、感情の整理をサポートします。親御さんが心身ともに健康であることは、お子さんの健やかな成長にも繋がります。

（例：親同士で気楽に話せる茶話会 研修 親相談等）

言語訓練とは？

✧言語訓練とは何？

☆お子さまの発達段階に合わせ、言葉（言葉以外も含める）の理解力のアップ、言葉の発話力のアップ、やりとり（コミュニケーション）力のアップを目指し個別訓練を行います。



☆訓練の中で親御さんからお子さまへの声かけの方法などもお伝えします。



☆言葉以外でも、ご自宅や、療育の中での困りごと、心配なことの相談も可能です。

☆訓練は楽しく、お子さまのできること見つけから始めます。





作業療法士が療育へ参加しています！

感覚—運動あそび

- 感覚—運動あそびでは、揺れる・力を入れるなどの感覚を感じながら、姿勢保持と体を動かす運動あそびを提案します。
- 体が思いどおりに動かせるようになると手先が器用になったり、日常生活動作ができるようになります。運動は日常生活動作の土台となります。
- お子さんが好きなあそびを一緒に見つけませんか♪

グループミーティング

- グループミーティングでは、日常生活動作の発達の段階と取り組み方を解説します。
- その他にも体や手のあそびの解説や保護者さまからの要望に合わせたテーマをお話ししようと考えています。
- ご意見をお聞かせくださいね！



製作あそび

- 製作あそびでは、貼る・切る・描く・折る・もむ・破るなどの基本の活動で手先の動きを育てるあそびを提案します。
- 手先が上手になったら、はさみなどの道具を使うあそびに発展します。保護者さまも一緒に楽しんでくださいね♪

食事指導(お口の発達)

- 丸飲み傾向、コップで飲めない、強い偏食など心配がありましたら、相談してくださいね。
- 給食の時間に直接支援します。
- お口の発達は言葉を話すことにつながります、お口の動きを一度よくみてくださいね！

個別相談

- 13:30～(1時間程度)、1日1枠、予約制です。
- いろんなことがわからなくて、不安に思うことがありますよね、一人で心配するより話してみませんか？

音楽療法について

未就学児を対象とした音楽療法による小集団支援プログラムを実施しております。本プログラムは、音楽療法士(日本音楽療法学会認定)が、お子さまの発達に合わせた専門的な支援を行うことを目的としています。

音楽療法のねらい

音楽療法は、音楽の持つリズムやメロディー、即時性を活かし、お子さまのこば・身体・情緒・社会性の発達を促す支援法です。言語発達の支援や、情緒の安定、対人関係の基礎となる「気づく」「眼差しの共有」「要求」「見分ける・聞き分ける」「まねをする」といった基礎的な行動が身につくよう音楽活動を通じて育てていきます。音楽活動は、言葉だけに頼らず、「音」「リズム」「身体の動き」といった非言語的な手段でのコミュニケーションを可能にします。まだ言語での表現が難しいお子さまでも、音を通じて気持ちを表現したり、他者とのつながりを感じたりする経験ができます。これは、言語の前段階のコミュニケーション能力の発達にもつながります。

ABA（応用行動分析）の視点から

本プログラムでは、ABAの理論に基づき、「行動を観察し、適切な支援を加えることで、望ましい行動を増やす」ことを目指しています。音楽活動の中に、スモールステップの提示、視覚的支援、強化子の活用（できたことへの具体的な賞賛や達成感）などを取り入れ、効果的な発達支援を行います。

小集団での活動の意義

小集団でのセッションは、お子さま同士の模倣・協調・順番待ち・共同注意など、対人スキルや社会性の土台となる力を自然に育むのに適しています。また、同年齢のお子さまとの関わりを通して、就園前の準備としても効果的です。

セッションの流れ（例）

- ・ はじまりのうた（定型化された始まりで安心感を得る）
- ・ リズム活動（打楽器や手遊びを通じた身体表現）
- ・ 音楽に合わせた模倣活動（音声模倣・動作模倣）
- ・ コミュニケーションの促進（楽器を使った即時的な音のやりとり）
- ・ おわりの活動（セッションの締めくくりと切り替えの練習）

最後に

音楽の力と行動分析の理論を活かし、お子さまの「できた！」「たのしい！」という気持ちを大切に、支援を行っています。ご家庭と連携しながら、一人ひとりに合わせた支援を行ってまいります。ご不明な点がございましたら、いつでもご相談ください。

よくあるご質問 (Q&A)

Q1. 音楽が得意ではないのですが、子どもは参加できますか？

A. はい、大丈夫です。

音楽療法では「上手に歌う」「楽器を演奏する」ことが目的ではありません。お子さまが音楽をたのしみながら関わるのが、発達の促進につながります。個々のペースに合わせて支援します。

Q2. 子どもが集団に慣れていないのですが、大丈夫でしょうか？

A. ご安心ください。

集団に対して不安や抵抗を感じるお子さまも少なくありません。当園では、まずお子さまの気持ちや表現を丁寧に受け止めること大切にしています。無理に「集団に入る」ことを求めるのではなく、その子が安心できる距離感から、少しずつ興味のある活動に関われるようなサポートを行います。たとえば、はじめは少し離れた場所から音を聴いているだけでも OK です。お子さまのペースを尊重し、「やってみようかな」という気持ちが自然に芽生えるのを待つことが、心地よい集団参加につながっていきます。安心できる環境と関係性の中で、少しずつの一步を一緒に見守っていきます。「まだできない」ではなく、「まだそのときではないだけ」。子どもたちの中には、“音“や”人の存在”を感じながら、ゆっくりと心の準備を進めている子もいます。私たちは、その小さなサインを見逃さず、一步一步を喜び合えるような関りを心がけています。

Q3. ABA 的アプローチとは具体的に何をしますか？

A. お子さまの行動を観察し、適切なサポートを加えて発達を促します。

たとえば、着席が難しいお子さまに対しても、無理に座らせるのではなく「立ったまま参加してもよい活動」や「短時間だけでも座れたことを認める」など、スモールステップで支援を行います。着席が難しいのは「わがまま」ではなく、発達特性に基づく困りごとであることが多くあります。私たちは「座らせること」を目標にするのではなく、まずは「活動に参加できること」を大切にしながら、その子にとって可能な形で関りを増やしていくことを目指しています。

Q4. 言葉がまだ出ていないのですが、音楽療法は効果がありますか？

A. はい、言語の発達段階に関係なく効果があります。

音楽には、言語を使わずに気持ちや意図を伝え合う「非言語的コミュニケーション」の要素が多く含まれています。まだ話すことが難しいお子さまでも、音のやりとりやリズム、表情の変化などを通じて、他者とつながる経験が得られます。こうした「言語の前段階のコミュニケーション」を大切に育むことで、言語発達の土台づくりにもなり将来的な言語の理解や表現にもつながっていきます。同じリズムを感じる、音を返すこと、一緒に歌うこと。それらはすべて、「あなたと一緒にいるよ」「楽しいね」と伝える、心のやりとりです。音楽療法は、そんな非言語的なつながりを大切にしています。

Q5. 欠席や途中参加の場合はどうなりますか？

A. 柔軟に対応いたします。

体調やご家庭のご都合に配慮し、無理のない参加を第一に考えています。途中参加もサポートいたしますので、焦らずゆっくり進んでいきましょう。

お問い合わせ・ご相談はいつでもスタッフまでお気軽にどうぞ。

